

# 理 事 会 便 り

## 第4回 常任理事会議事録

日 時 昭和37年9月10日(月) 17.00~21.00  
 場 所 神田学士会館  
 出席者 神山・吉武・今井・松本・岸保・増田・須田・  
 正野・村上・宥住・畠山・淵 各常任理事 堀  
 内 地方理事

### 決 議

1. 大会会場の大学校々舎の修理が11月一杯かかりそうなので、吉武、今井両理事が現地交渉で日程をきめる。
2. 11月17日、18日の新潟における東管との共催研究会には今井、松本両理事で相談の上出席者をきめる。
3. 理事長のあいさつ状とともに松本氏らの豪雨の論文別刷(50部)等を中国気象学会へ送る。同時に向うの文献の配布受領状況のリストを送り問い合せを行なう。
4. 日本学術会議第6期会員候補者として投票の結果次の2氏を推せんする。  
 和 達 清 夫  
 大 谷 東 平

### 日本気象学会気象研究ノート80周年記念号について

日本気象学会では80周年を記念して、気象研究ノートを倍増頁をして記念特集号を出版することになった。

これは大略過去5年ぐらゐの各部門での成果を平易に集約したもので、今後の発展の方向をさし示すものです。過去5か年間にそれぞれの部門はどのように発展してきたか、そして現在の主要な問題はなにか、そして今後どう発達していくかという観点に立って執筆されていくものです。

各著者のご苦労はもちろんのこと、どうぞ全会員で盛りあげていく積りで、ご支援をお願い申し上げます。

気研ノート編集理事 神山 恵 三

#### ◇ 執 筆 要 領

原稿の書き方(400字ずめを用いること)

1. 編、章については、次のように空間をあける。

□□□□	1 章
□□□□	1-1
□□□□	1)
□□□□	(1)

2. 文字、文体

(1)当用漢字、新かなづかい“校庭編気象用語”を標準として使用する。

- (2)字 体

ローマン使用の文字はなにもつけない。

イタリックの文字は“赤、で波線~をつける。

ゴザは赤で—をつける。ギリシヤは赤でかこむ。

- (3)数式、文字数については、次のようにする。

$x/a$ ,  $P/T=R/V$   $P_0$ は $P_{10}$  とかく。

- (4)文体は平がなまじり、平易な口語文章体。

3. 図表、写真

- (1)図番号は章ごとの通し番号。

- (2)横6.5cm, 13cmの2つとする。

- (3)坐標軸のみ面書き、ワグ取りはしない。図題、説明坐標の数字は鉛筆がきのこと、坐標軸の数字は縮尺を考えて墨入をする。図の位置の指定は原稿欄外に書く。

### 文 献

引用文献は、その箇所につけ、章の終りに記載。著者名; 年, 題, 雑誌名(略号), 巻, 号, (報文)著者名; 発行年, 書名, 出版社(著書)。